

所属・資格 史学科・教授

申請者氏名 森ありさ

研究課題		近現代ヨーロッパにおけるメモリアルと比較研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	第一次世界大戦100年期を経て、ヨーロッパ諸国は戦後の秩序再構築の時代から1世紀を迎える。大戦戦没者追悼碑や各地の民族運動のモニュメント類が建てられていった戦間期の様相を、メモリアル類の比較分析から明らかにすることが本研究の目的である。
	研究の結果	ブリテン自治領のカナダでは首都オタワに第一次世界大戦のメモリアルが建設された。この完成は1937年で、ジョージ6世による除幕式が5月に行われたが、同年10月に第二次世界大戦が勃発する。カナダのナショナル・メモリアルは第一次世界大戦に特化することがないままに二度の大戦を経て、その後、朝鮮戦争をはじめとする複数の戦争の年代が追加されて今日に至っている。とくに注目すべきは、メモリアルへの最新の年代追記で1899-1902(南アフリカ戦争)と2001-2014(アフガン紛争)が対になる面に刻まれ、メモリアルすべての面が埋められた形になっている。メモリアル建設本来の戦争以前の年代が追記されたことは、カナダのナショナル・アイデンティティを考察する上での重要な手がかりである。
	研究の考察・反省	メモリアルへの最新の年代追記は新聞記事等から2014年であることが分かった。この年はカナダ議事堂へのテロリスト乱入事件が発生し、メモリアル警護兵1名が射殺されている。9.11以降の「テロとの戦い」の文脈がカナダのメモリアルを読み解くカギでもあることが明らかになった。またUKやブリテン自治領諸国のメモリアルが「無名兵士」追悼の意味を強調することに対して、カナダの事例は2014年にテロリストに射殺された警護兵の名前を刻んだ碑がメモリアル敷地内に建てられている。この固有名詞の意味を、今後は引き続き考察する必要がある。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 文理学部人文科学研究所、総合研究、研究発表 「カナダの世界大戦メモリアルの「変化」とその文脈」 2019年10月24日、文理学部、2号館、9階会議室	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物 「ウィリー・レドモンドー西部戦線に散ったアイルランド自治の夢」『侠の世界史』清水書院、2020年刊行予定	